(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2004-76477
(P2004-76477A)
(43)公開日　平成16年3月11日(2004.3.11)

(51)Int.Cl.[7]	F I		テーマコード（参考）
E04F 11/18	E04F 11/18		2E101
F16B 5/10	F16B 5/10	G	3J001

審査請求 未請求　請求項の数 3　OL　（全 6 頁）

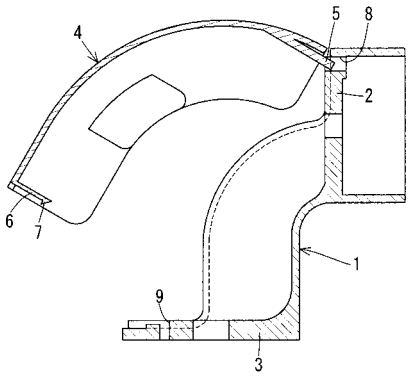
(21)出願番号　特願2002-240259(P2002-240259)
(22)出願日　平成14年8月21日(2002.8.21)

(71)出願人　591121764
株式会社シロクマ
大阪府大阪市天王寺区味原町３番７号
(74)代理人　100074206
弁理士　鎌田　文二
(74)代理人　100084858
弁理士　東尾　正博
(74)代理人　100087538
弁理士　鳥居　和久
(72)発明者　熊代　誠一
大阪市天王寺区味原町３番７号　株式会社シロクマ内

Fターム(参考)　2E101 HH06 HH07 KK08 KK09
3J001 FA19 GA05 GB01 GC02 GC12
HA02 JA03 KA05 KB03

(54)【発明の名称】手摺用接続具

(57)【要約】
【課題】構造が簡単で、低コストで製造できる手摺用接続具を提供する。
【解決手段】屈曲した割管状本体１の両端部に座２，３を設け、本体１周壁の外側部分を両端の座２，３間で開口させ、この開口に前記本体１の周壁に連続するカバー４を着脱自在に被せた手摺用接続具において、前記カバー４の一端部に差込片５を延設すると共に、前記カバー４の他端部から内側へ延びる弾性板６の先端部に係合突起７を形成し、前記差込片５を一方の座２側の差込穴８に差し込み、弾性板６を撓ませつつ係合突起７を他方の座３側の掘込部９に係合させて、カバー４を本体１に固定する。
【選択図】　図３



【特許請求の範囲】
【請求項１】
屈曲した割管状本体１の両端部に座２，３を設け、本体１周壁の外側部分を両端の座２，３間で開口させ、この開口に前記本体１の周壁に連続するカバー４を着脱自在に被せた手摺用接続具において、前記カバー４の一端部に差込片５を延設すると共に、前記カバー４の他端部から内側へ延びる弾性板６の先端部に係合突起７を形成し、前記差込片５を一方の座２側の差込穴８に差し込み、弾性板６を撓ませつつ係合突起７を他方の座３側の掘込部９に係合させて、カバー４を本体１に固定することを特徴とする手摺用接続具。
【請求項２】
前記カバー４を弾性板６と一体のプラスチック成型品としたことを特徴とする請求項１に記載の手摺用接続具。
【請求項３】
前記カバー４を金属製とし、弾性板６をカバー４と別体のばねとしたことを特徴とする請求項１に記載の手摺用接続具。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【発明の属する技術分野】
この発明は、手摺の棒材の壁面への取り付けや、棒材同士の継ぎ合わせに使用する手摺用接続具に関するものである。
【０００２】
【従来の技術】
特開２００１－３２４９１には、手摺の棒材の壁面への取り付けや、棒材同士の継ぎ合わせに使用するエルボ型の手摺用接続具が記載されている。これを具体化した一例として、図９に示すようなものが考えられる。
【０００３】
この接続具は、屈曲した割管状本体５０の両端部に、手摺の棒材及び壁面にそれぞれビス等で固定される座５１，５２を設け、本体５０の周壁の外側部分を両端の座５１，５２間で開口させ、この開口に本体５０の周壁に連続するカバー５３を着脱自在に被せたものである。
【０００４】
前記カバー５３の一端部には差込片５４が延設され、他端部には内面から突出した凸部５５の先端部に係合突起５６が形成されている。また、本体５０の一方の座５１には差込穴５７が、他方の座５２には、一対の台部５８に支持されて浮き上がった状態で弾性棒５９が設けられている。
【０００５】
前記カバー５３を本体５０に固定するには、差込片５４を差込穴５７に差し込み、弾性棒５９を撓ませつつ係合突起５６を押し込んで、係合突起５６を弾性棒５９に係合させる。
【０００６】
なお、前記カバー５３は、高級品の場合、本体５０と同一の金属製とし、普及品の場合、プラスチック製とする。
【０００７】
【発明が解決しようとする課題】
ところで、上記のような接続具では、本体５０への弾性棒５９の取り付けに手間がかかり、カバー５３をプラスチック製としても、あまりコストダウンを図れないという問題がある。
【０００８】
そこで、この発明は、構造が簡単で、低コストで製造できる手摺用接続具を提供しようとするものである。
【０００９】
【課題を解決するための手段】

上記課題を解決するため、この発明は、カバーの一端部に延設した差込片を一方の座側の差込穴に差し込み、カバーの他端部から内側へ延びる弾性板を撓ませつつ、その先端の係合突起を他方の座側の掘込部に係合させて、カバーを本体に固定することとしたのである。

【００１０】

このように構成すると、本体に弾性棒等の別部材を取り付ける必要がなく、カバーを一体成形品として、製造コストを抑制することができる。

【００１１】

【発明の実施の形態】

以下、この発明の実施の形態を添付図面に基づいて説明する。

【００１２】

図１及び図２に示すように、この手摺用接続具は、屈曲した割管状本体１の両端部に、手摺の棒材及び壁面にそれぞれビス等で固定される座２，３を設け、本体１周壁の外側部分を両端の座２，３間で開口させ、この開口に本体１の周壁に連続するカバー４を着脱自在に被せたものである。

【００１３】

前記カバー４の一端部には差込片５が延設され、カバー４の他端部から内側へ延びる弾性板６の先端部には係合突起７が形成されている。本体１の一方の座２には差込穴８が、他方の座３には掘込部９が設けられている。本体１は金属製とされ、カバー４はプラスチックの一体成形品とされている。

【００１４】

前記カバー４を本体１に固定するには、図３に示すように、カバー４を傾けて差込片５を差込穴８に差し込み、差込片５を軸にカバー４を旋回させ、弾性板６を撓ませつつ、図４に示すように、係合突起７を掘込部９に係合させる。

【００１５】

このような接続具は、本体１に従来例のような弾性棒等の別部材を取り付ける必要がなく、カバー４がプラスチック成形品であることから、低コストで製造でき、施工性にも優れたものとなる。

【００１６】

なお、カバー４を本体１と同一の金属製として、高級感を演出する場合には、図５乃至図７に示すように、弾性板６をカバー４と別体のばねとして、カシメ等で取り付けるようにすればよい。

【００１７】

このように、普及品と高級品を製造する場合にも、本体１は両方の製品に共用できるので、部品の種類が増えることがなく、生産や部品管理の合理化を図ることができる。

【００１８】

ところで、上記実施形態では、手摺の棒材を壁面に取り付けるものを例示したが、この発明に係るカバーの固定構造は、手摺の棒材同士を継ぎ合わせる接続具や、図８に示すように、棒材を受ける接続具にも適用することができる。

【００１９】

【発明の効果】

以上のように、この発明に係る接続具では、カバーに設けた弾性板を撓ませつつ、その先端の係合突起を座の掘込部に係合させて、カバーを本体に固定することとしたので、本体に弾性棒等の別部材を取り付ける必要がなく、製造コストを抑制できる。

【図面の簡単な説明】

【図１】この発明の第１実施形態のカバー取付状態を示す斜視図

【図２】同上のカバー分離状態を示す斜視図

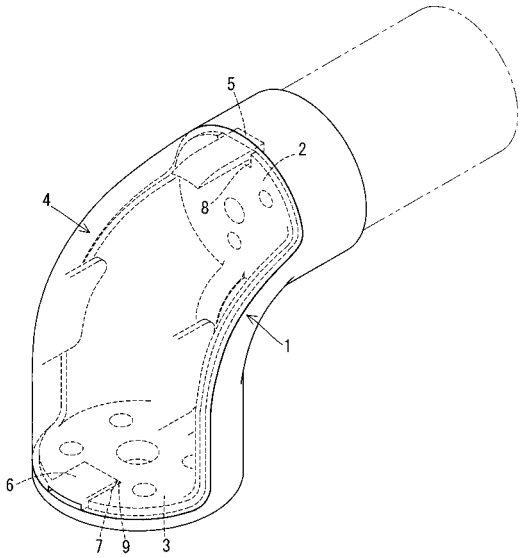
【図３】同上のカバー取付過程を示す縦断側面図

【図４】同上のカバー取付状態を示す縦断側面図

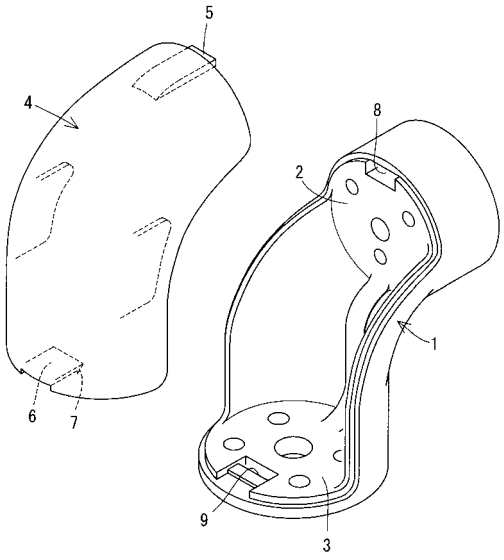
【図５】この発明の第２実施形態のカバー分離状態を示す斜視図

【図６】同上のカバー取付過程を示す縦断側面図
【図７】同上のカバー取付状態を示す縦断側面図
【図８】棒材を受ける実施形態を示す側面図
【図９】従来例のカバー分離状態を示す斜視図
【符号の説明】
1　本体
2，３　座
4　カバー
5　差込片
6　弾性板
7　係合突起
8　差込穴
9　掘込部

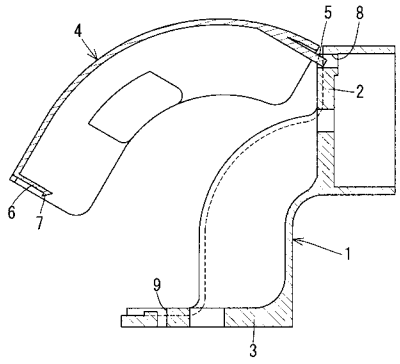
【図１】



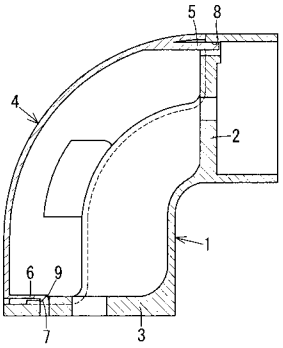
【図２】



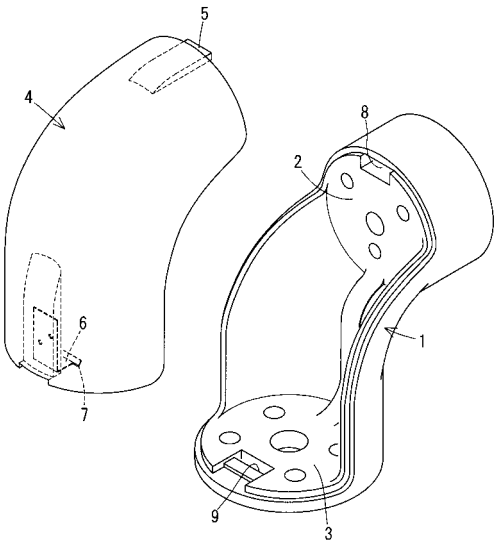
【図３】



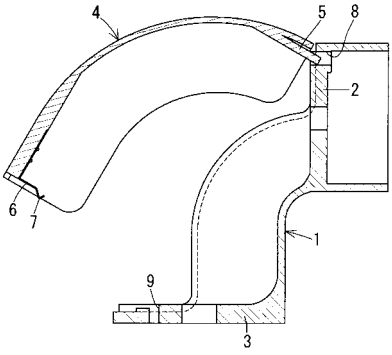
【図４】



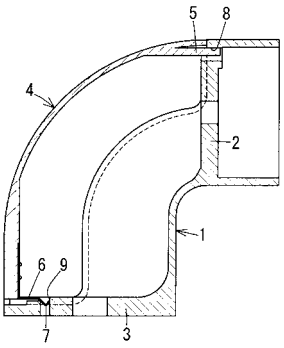
【図５】



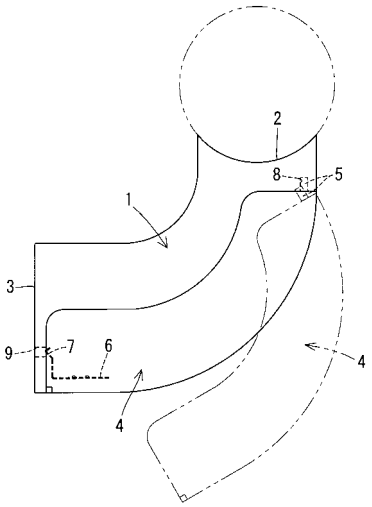
【図６】



【図７】



【図８】



【図９】

